

# 2017 SGH通信

【2年生配布用】

No.2 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

## 「SGH 課題研究2」の実施計画について（5月～7月ゼミ指導前）

「SGH 課題研究2」（2単位）が始まり、4月は「情報スキル」を学ぶことができました。今回は、5月から大学の先生からアドバイスをもらう7月のゼミ指導前までの予定をお知らせします。予定を確認し、計画性をもって課題研究に取り組んでください。その中で将来のグローバルリーダーとしての力を着実に付けていきましょう。

### 【「SGH 課題研究2」（2単位）各週の予定】

月 日（曜）	実施内容	指導者等	内容等
5月10日(水)	情報スキル④	各担当の先生	・Wordで報告書の作成
5月18日(木)	課題解決型ワークショップ	滋賀大学国際センター 森宏一郎 教授	・「持続可能性」に関する参加型ワークショップ
5月25日(木)	グローバル講演会	東京大学大学院教育学研究科 北村友人 准教授	・持続可能な社会の実現のために ・探究的な学習の意義
5月31日(水)	論文テーマ決定 テーマに関する論文講読	正担任・副担任	・今年度の個人研究課題の設定 ・テーマに関する書籍や論文の調査及び読書
6月 7日(水)	リサーチクエスションの設定	正担任・副担任	・論文作成のための骨組みを構成
6月14日(水)	仮説の設定・根拠の調査 研究計画書の作成	正担任・副担任	・テーマ決定などを受けて、論文作成の計画書を作成
7月 5日(水)	研究計画書の完成	正担任・副担任	・計画書を完成させ、大学教官ゼミ指導への準備

### ★課題解決型ワークショップ（滋賀大学国際センター・森宏一郎 教授） 5月18日（木）

ワークショップとは、参加・体験型の学びのスタイルです。「SGH課題研究2」において、個別・5領域別の論文（昨年のもを深化させたもの）を作成する前に、もう一度5領域の枠を外して、2年生の仲間たちと意見交換・グループワークをし、最終的には自分たちの考えやアイデアを提案してもらいます。

今年も、滋賀大学国際センターの森先生から、「持続可能な地域づくり」に関するワークショップをしていただきます。皆さんから柔軟な発想と斬新なアイデアがたくさん出ることを楽しみにしています！

### 【 昨年のワークショップの様子 】



平成26年度文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

★グローバル講演会（東京大学大学院教育学研究科・北村友人 准教授）5月25日（木）

北村友人先生は、本校SGH事業の構想に大きく関わっていただいている研究者で、本校SGHのスーパーバイザー的立場の先生です。現在は、東京大学大学院教育学研究科で後進の育成のために教鞭をとられるとともに、「国際開発」分野の第一線の研究者としてご活躍中です。今回は、本校2年生のために、ご多用の中を東京から駆けつけていただけることになりました。

今回、80分間の御講演時間の中で、北村先生にお話いただく主な内容は以下の2点です。

- ①「持続可能な社会の実現のために私たちに何ができるのか。」
- ②「高校時代に探究的な学習をする意義」

2年生の君たちには、この時期にこうしたテーマでお話いただく意義は理解してもらえると考えています。昨年度1年間のSGHは、グループ活動を中心にしながら、目まぐるしく変化していく課題を追いかけていくことに精一杯で、先の見通しをもって研究に没頭する余裕はなかったと思います。今年度は、自らテーマを設定し、個人研究に入っていきます。その土台作りとして、今回の講演会を企画しました。



★論文テーマ決定 5月31日（水）

★リサーチクエスチョンの決定 6月7日（水）

★仮説の設定 研究計画書の作成 6月14日（水）・7月5日（水）

いよいよ2年次研究論文作成がスタートします！

最初に論文テーマを決定します（5/31）。昨年度の皆さんの研究実績を踏まえたアジアの持続可能性に関する今年度の研究テーマを確定します。次に、論理的な論文構想に基づくリサーチクエスチョン（RQ）を設定し、その検証に必要な資料をRQごとに複数想定します。リサーチクエスチョンを設定したら、仮説を立てます。仮説とは君たちが設定したリサーチクエスチョンに対する「答え」の予想を言います。必ずしも最終的な答えと「一致」する必要はないですが、この予想は、リサーチクエスチョンの見直しにつながり、また研究の方向性を定めることにつながります。論文作成には最も欠かせない大切な時間です。

またこうした作業と同時に、自分の研究に適した書籍・論文等を読み調べ、研究の深化及び解決に向けての知識・情報を得ます（6/15）。論文を作成するためには、いかに多くの書籍・論文等を読むかがポイントとなります。しっかりと知識を得た上で、論文の作成に入りましょう。



■ゼミ形式による探究活動（5領域別研究の深化）に向けて

今年度は、ゼミ形式での研究を行います。理系クラスは1・4組と2・3・5組の2つのユニット、文系は3クラスを1つのユニットとします。その中で、クラスの垣根を取り払って、方向性の近い5名前後のゼミを構成し、本校教員1名がファシリテーター（研究促進者）として君たちの研究をサポートします。

また、各領域の専門家（大学の先生方）に7月に御来校いただき、君たちの研究の方向性にアドバイスをもらうことになっています。